

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
物理基礎	2	1年・2類	必修
授業担当者	教科書名	副教材等	
	第一学習社『改訂新物理基礎』	第一学習社『セミナー物理基礎』 授業ノート（プリント）	

科目の到達目標
自然現象を正しく認識する上で必要な物理的概念や原理・法則を知らせ、自然現象を理解する能力を養う。

評価の観点と方法について
物理の基礎知識を系統的に理解できているか、問題解決のコツを見つけているかを評価の観点とする。中間考査・期末考査を実施し、これを80点に換算して、残り20点は平常点（各種提出物、授業態度等）として100点満点とする。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一 学 期	4	物理量の測定と表し方	物理量の定義と有効数字を理解する。	物理量とは、「単位まで含めた量」であり、測定や計算によって得られる量であることを知る。	定義を理解する。
	5	速度と加速度	物体の運動を変位、速度、加速度という観点から理解する。	生徒の理解しやすい平均の速さから入り $x-t$ グラフ、 $v-t$ グラフや作図等を用いながら、様々な運動について、ある時刻における座標、速度、加速度を求めていく。	問題集の問題を解くことができること。
		6	落下運動	等加速度直線運動として落下運動を理解する。	
	7	力のつりあい	力の概念と力の合成・分解を学ぶ。 力のつりあいを理解する。	力はベクトル量であることを説明し、力の合成・分解について理解する。 三角比・三角関数にも触れる。 力のつりあいを考察する。	
		(期末考査)			

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	運動の法則	力が働くと物体の運動の様子が変化することを学ぶ。	さまざまな現象を通して、運動の三法則（慣性、作用反作用、運動方程式）を学習していく。	問題集の問題を解くことができる。
	10	仕事と力学的エネルギー	仕事をする量として、エネルギーを定義する。 力学的エネルギー保存の法則を理解する。	仕事とエネルギーの関係を（エネルギーの原理）について理解させる。運動エネルギー・位置エネルギーについて理解する。力学的エネルギー保存則を導く。そしてこの法則を利用して解析できる運動について考えていく。	
	11	熱とエネルギーの変換と保存	熱と温度と仕事の関係を知る。	熱と温度の概念を知り、熱と仕事の関係を理解する。	
	12	(期末考査)			
三 学 期	1	波の性質と音	波の概念、横波・縦波の定義を知る。	波の伝わるしくみ・波動を表す要素について学ぶ。横波と縦波の違いを理解する。	問題集の問題を解くことができる。 注：電気・磁気は中学での学習内容とほぼ同じなので、自学・自習となる。
	2		日常生活とも関連の深い音波について波動としての現象を理解する。	発音体の振動と共鳴・共振、およびドップラー効果について実験などで具体的に現象を示しながら理解する。	
	3	(学年末考査)			

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

興味関心を高めるために、パワーポイント、DVDなどの視聴覚教材を使用する。また、「共通テスト」レベルの問題に対応できるように、問題演習等を行っていく。なお、電気・磁気は2・3年次の「物理」で詳しく学ぶが、「物理」を選択せずに、物理基礎で受験する生徒には、個別に対応する。

とにかく、授業に積極的に参加することが楽しく物理を学ぶコツである。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
化学基礎	2	1年1類	必修
授業担当者	教科書名	副教材等	
	新編 化学基礎 (東京書籍)	ニューサポート 改訂 新編 化学基礎 (東京書籍)	

科目の到達目標
自然、特に化学的な事物・現象に関する観察・実験などを通して、自然に対する関心や探求心を高め、化学的に探求する能力と態度を育てるとともに物質の成り立ちを中心に、化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を育成する。

評価の観点と方法について
<p> 考查と平常点の計で行う。平常点は平素の授業態度はもちろん、探求活動のレポートの提出とその内容についても重きを置く。 また随時、小テストの実施、演習プリント、ワークの提出によって理解度をチェックする。 </p>

月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一 学 期	4 1編 物質の成り立ち 1章 物質の探求	化学の基本的な実験操作や物質を探求する方法を身に付ける。 物質の構成粒子を観察・実験を通して探求し、基本的な概念を理解し、物質について微視的な見方が出来るようになる。	我々の身の回りの様々な物質は、純物質の集まりであることを理解する。 探求活動「混合物の分離」 物質を構成する原子・分子・イオンなどの構造や性質を理解する。 物質の基本的成分である元素に見られる規則性について学習する。 探求活動「硫黄の同素体」 物質を構成する基本的な粒子の結合のしくみと物質の性質との関係を理解する。	身の回りの物質を純物質と混合物に分類できるか。分離の実験操作を理解しているか。 元素記号・元素名が覚えられているか。 原子・分子・イオンの存在とその表し方を理解しているか。 組成式がつくれるか。 原子の構造を理解しているか。 化学結合のしくみが理解できているか。
	5 2章 物質の構成粒子			
	6 3章 物質と化学結合			
	7 期末考査			

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	2編 物質の変化 1章 物質と化学変化	物質の量を表す概念として物質質量「モル」を導入、原子量・分子量・式量と物質質量とを関係付けられるようになる。 化学反応における物質の量的関係を理解する。	原子・分子・イオンなど微粒子の質量の表し方を理解するとともに、化学変化の表し方、そのときの物質の量的関係について学習する。	物質の量を、粒子の個数に基づく物質質量「モル」で扱うことができるか。 物質質量と他の量単位とを関係付けられるか。 化学反応式がかかるか。 化学反応式の係数が表す意味を理解し、化学変化の量的関係が理解できているか。
	10	2章 酸と塩基	酸と塩基の反応の概念を理解し、酸と塩基の強弱、pH、中和反応とその量的関係について理解する。	酸と塩基の定義を理解し、身近な物質を扱い酸と塩基の基本的な性質について学習する。 酸と塩基の強弱と電離度の関係を学習する。 身近な物質を扱いpHについて学習し、pHの求め方を理解する。酸性雨についても触れる。 中和反応とその量的関係を理解し、中和滴定の操作について学習する。 探求活動「中和滴定」	酸と塩基の定義、その性質が理解できているか。 強酸・弱酸、強塩基・弱塩基が理解できているか。 pHが求められるか。 中和反応の定義が理解できているか。 中和反応の量的関係を理解し、計算によって酸・塩基の濃度などが求められるか。 中和滴定の操作方法を理解しているか。
	11	12 期末考査			
三 学 期	1	3章 酸化と還元	酸化・還元が電子の授受で説明できることを理解し、それが身の回りの多くの化学変化と関係していることを理解する。	電子の授受による酸化・還元を学習する。 酸化の程度を示す酸化数について学ぶ。 酸化還元反応は、酸化剤・還元剤の反応であることを理解する。 金属のイオン化傾向について学習する。 観察実験「イオン化傾向」 電池のしくみについて理解する。 観察実験「様々な電池」	電子の授受による酸化・還元を学習する。 酸化の程度を示す酸化数について学ぶ。 酸化還元反応は、酸化剤・還元剤の反応であることを理解できているか。 金属のイオン化傾向について学習する。 イオン化傾向が金属の反応性と密接な関係があることを理解できているか。 電池のしくみが理解できているか。
	2				
	3	学年末考査			

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

随時、演習や小テストを行い、2年次・3年次で履修する化学の基礎を築く。そのためにも復習や課題を確実に行うこと。分からないことがあれば、そのままにせず、すぐに質問に来ること。

d 科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
化学基礎	2	1年3類	必修
授業担当者	教科書名	副教材等	
	改訂 新編 化学基礎 (東京書籍)	ニューサポート 改訂 新編 化学基礎 (東京書籍)	

科目の到達目標
自然、特に化学的な事物・現象に関する観察・実験などを通して、自然に対する関心や探求心を高め、化学的に探求する能力と態度を育てるとともに物質の成り立ちを中心に、化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を育成する。

評価の観点と方法について
<p> 考查と平常点の計で行う。平常点は平素の授業態度はもちろん、探求活動のレポートの提出とその内容についても重きを置く。 また随時、小テストの実施、演習プリント、ワークの提出によって理解度をチェックする。 </p>

月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一 学 期	4 1編 物質の成り立ち 1章 物質の探求	<p>化学の基本的な実験操作や物質を探求する方法を身に付ける。</p> <p>物質の構成粒子を観察・実験を通して探求し、基本的な概念を理解し、物質について微視的な見方が出来るようになる。</p>	<p>我々の身の回りの様々な物質は、純物質の集まりであることを理解する。</p> <p>探求活動「混合物の分離」 物質を構成する原子・分子・イオンなどの構造や性質を理解する。</p> <p>物質の基本的成分である元素に見られる規則性について学習する。</p> <p>探求活動「硫黄の同素体」 物質を構成する基本的な粒子の結合のしくみと物質の性質との関係を理解する。</p>	<p>身の回りの物質を純物質と混合物に分類できるか。分離の実験操作を理解しているか。</p> <p>元素記号・元素名が覚えられているか。</p> <p>原子・分子・イオンの存在とその表し方を理解しているか。</p> <p>組成式がつくれるか。</p> <p>原子の構造を理解しているか。</p> <p>化学結合のしくみが理解できているか。</p>
	5 2章 物質の構成粒子			
	6 3章 物質と化学結合			
	7 期末考査			

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	2編 物質の変化 1章 物質と化学変化	物質の量を表す概念として物質質量「モル」を導入、原子量・分子量・式量と物質質量とを関係付けられるようになる。 化学反応における物質の量的関係を理解する。	原子・分子・イオンなど微粒子の質量の表し方を理解するとともに、化学変化の表し方、そのときの物質の量的関係について学習する。	物質の量を、粒子の個数に基づく物質質量「モル」で扱うことができるか。 物質質量と他の量単位とを関係付けられるか。 化学反応式がかかるか。 化学反応式の係数が表す意味を理解し、化学変化の量的関係が理解できているか。
	10	2章 酸と塩基	酸と塩基の反応の概念を理解し、酸と塩基の強弱、pH、中和反応とその量的関係について理解する。	酸と塩基の定義を理解し、身近な物質を扱い酸と塩基の基本的な性質について学習する。 酸と塩基の強弱と電離度の関係を学習する。 身近な物質を扱いpHについて学習し、pHの求め方を理解する。酸性雨についても触れる。 中和反応とその量的関係を理解し、中和滴定の操作について学習する。 探求活動「中和滴定」	酸と塩基の定義、その性質が理解できているか。 強酸・弱酸、強塩基・弱塩基が理解できているか。 pHが求められるか。 中和反応の定義が理解できているか。 中和反応の量的関係を理解し、計算によって酸・塩基の濃度などが求められるか。 中和滴定の操作方法を理解しているか。
	12	期末考査			
三 学 期	1	3章 酸化と還元	酸化・還元が電子の授受で説明できることを理解し、それが身の回りの多くの化学変化と関係していることを理解する。	電子の授受による酸化・還元を学習する。 酸化の程度を示す酸化数について学ぶ。 酸化還元反応は、酸化剤・還元剤の反応であることを理解する。 金属のイオン化傾向について学習する。 観察実験「イオン化傾向」 電池のしくみについて理解する。 観察実験「様々な電池」	電子の授受による酸化・還元を学習する。 酸化の程度を示す酸化数について学ぶ。 酸化還元反応は、酸化剤・還元剤の反応であることを理解できているか。 酸化還元反応は、酸化剤・還元剤の反応であることを理解できているか。 イオン化傾向が金属の反応性と密接な関係があることを理解しているか。 電池のしくみが理解できているか。
	2				
	3	学年末考査			

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

随時、演習や小テストを行い、化学の基礎を築く。そのためにも復習や課題を確実にを行うこと。分からないことがあれば、そのままにせず、すぐに質問に来ること。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
生物基礎	2	2類・1年	必修
授業担当者		教科書名	副教材等
		東京書籍「改定・生物基礎」	ニューグローバル生物基礎（東京書籍） フォトサイエンス生物図録（数研出版）

科目の到達目標 日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。

評価の観点と方法について

- ・授業中の発言や発表などの態度と課題やノート等の提出物とともに、生物や生命現象に対する関心・意欲を評価する。
- ・適宜小テストや課題テストを実施し、平常点として加算する。
- ・定期考査の点数を8割、小テストやレポートなどの提出物を2割として各学期の評価とする。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント					
一 学 期	4	第1編 生物と遺伝子 <u>生物の特徴</u>	生物の多様性と共通性の視点を身につけ、生物の体を構成する共通の基本単位である細胞の構造と働きを学び、生命活動に必要なエネルギーと代謝について理解する。	生物は多様でありながら共通性をもっていることを理解し、細胞および生物の構造について学ぶ。 実験 1-1. 「原核生物と真核生物の観察」 実験 1-2. 「オオカナダモの葉の細胞の観察」 発展「原形質流動の速度の測定」 発展「細胞の研究と細胞の分画法」 発展「電子顕微鏡で明らかになった細胞構造」 実験 1-3. 「単細胞生物と多細胞生物の観察」	※観察・実験等を行い、レポートを書く。観察・実験に対する姿勢、予想や考察、器具の操作、報告書などから評価する。評価の観点のうち、思考・判断、観察・実験の技能・表現に関する配分が大きい。					
	5	第1節 多様な生物 第2節 生物の共通性 第3節 生物共通の単位-細胞 第4節 細胞の構造の共通性と多様性 第5節 生物の構造の共通性と多様性		生物の活動に必要なエネルギーの出入りと、生物に必要な物質の合成や分解について学ぶ。 発展「酵素の働きと特徴」実験 1-4. 「カタラーゼの働き」発展「光合成と呼吸の仕組み」資料学習「呼吸基質の推定」発展「葉緑体とミトコンドリアの構造」		※授業内容を適切にまとめているか、科学的な思考ができていないかを評価する。				
	6	細胞とエネルギー 第1節 生命活動とエネルギー 第2節 光合成と呼吸		遺伝情報を担う物質としての DNA の特徴について理解する。 発展「染色体と DNA」実験 2-1. 「ヒトの DNA の抽出」 実験 2-2. 「DNA 模型の製作」発展「遺伝子の研究の進展と技術の革新」			※授業に対する姿勢、学習態度、生物への関心等で判断する。評価の観点のうち、特に関心・意欲・態度の項目を評価する。			
	7	第2編 遺伝子とその働き <u>遺伝情報と DNA (2)</u>		DNA が複製され分配されることにより、遺伝情報が伝えられることを理解する。 発展「DNA の複製の仕組み」実験 2-3. 「分裂期と間期の細胞の観察」				DNA の情報に基づいてタンパク質が合成されることを理解する。		
	二 学 期	9		<u>遺伝情報の分配 (2)</u> 第1節 遺伝情報の複製 第2節 遺伝情報の分配						
		10		<u>遺伝情報とタンパク質の合成 (2)</u>						

三 学 期	11	<p>第1節 遺伝情報とRNA 第2節 遺伝情報の発現とタンパク質の合成 第3節 遺伝情報の維持と発現</p> <p>生物の体内環境の維持</p>	<p>生物の体内環境の維持について観察、実験などを通して探究し、生物には体内環境を維持する仕組みがあることを理解させ、体内環境の維持と健康との関係について認識する</p>	<p>発展「いろいろなRNA」実験2-4。「DNAとRNAの染色による転写の観察」発展「転写と翻訳の仕組み」 発展「タンパク質の構造」発展「発生の過程で発現が異なる遺伝子」</p> <p>体内環境が保たれている仕組みを理解する。 実験3-1。「運動による体温・心拍数・呼吸数への影響」 実験3-2。「血球の観察」 実験3-3。「ヒトの心臓」 発展「血液凝固因子」 発展「肝臓の尿素合成」 実験3-4。「血球と塩類濃度」 資料学習「溶血と塩類濃度」</p>	<p>※各問題への取り組み、取り組んだ内容から評価する。</p>
	12	<p>生物の多様性と生態系</p> <p>第1章 植生の多様性と分布</p> <p>第1節 さまざまな植生 第2節 遷移 第3節 気候とバイオーム</p>	<p>陸上には様々な植生が見られ、植生は長期的に移り変わっていくことを理解し、様々なバイオームが成立していることを学ぶ。</p> <p>実験4-1。「学校周辺の植生調査」実験4-2。「森林の階層構造と環境」発展「呼吸速度と光合成での光合成速度の関係」資料学習「火山溶岩上での植生の遷移」 実験4-3。「遷移と土壌養分」実験4-4。「世界のバイオーム」</p> <p>生態系では、物質が循環するとともにエネルギーが移動することを学び、生態系のバランスについての理解と生態系保全の重要性を認識する。</p> <p>実験4-5。「落葉の分解者による有機物の分解」 発展「農地の生態系に特徴的なエネルギーの流れ」 実験4-6。「水生生物を指標とする河川の水質評価」</p>		
	2	<p>第2章 生態系とその保全</p> <p>第1節 生態系とは 第2節 物質循環とエネルギーの流れ 第3節 生態系のバランスと保全</p>			
3					

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

生物は暗記科目だと思われがちだが、教科書を丸暗記するのではなく、生物の現象の中で個々の知識を関連付けていく事が肝要である。生物基礎の内容自体は難しいものではないが、入試ではなかなか点が取れないように作問されている。何事も同じであるが、基礎が一番大切。日々の積み重ねを怠らないようにして欲しい。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
地学基礎	2	1年1類	必修
授業担当者	教科書名	副教材等	
*****	地学基礎 改訂版 (実教出版)	ビジュアルプラス地学基礎ノート (実教出版)	

科目の到達目標
<p>地学 (地球科学) は、原子・分子レベルの知識から気象、地球の構造・変動、宇宙、生物の変遷 (進化) まで、その内容は多岐にわたるビッグサイエンスである。その見地から自然界を巨視的に俯瞰し、これからも起こるであろう地震や気象災害に備えることが重要である。また、人類共通の課題である地球温暖化などの環境問題についても学び、解決方法について考えてほしい。</p>

評価の観点と方法について
<p>定期考査は基本的内容が理解できているかを調べることであり、評価の 80% は定期考査の点数とする。残りの 20% の評価は平常点とし、授業ノート・問題集の提出を評価する。(平常点最大 30%、定期考査 70% で評価する場合もある) これ以外にも ±10 点の範囲内で、授業態度についても考慮する場合がある。</p>

	月	学習単元・項目	学習のねらい	評価のポイント	
一 学 期	4	1 章 地球の構成と運動 <u>1 節 地球の形と大きさ</u> 1 地球の形と大きさを調べる 2 地球の形	<ul style="list-style-type: none"> 地球の形と大きさの測定の歴史について学習する。 地球の形や地表の姿について学習する。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業中の興味、関心、態度 単元ごとにワーク提出 	
	5	<u>2 節 地球内部の構成</u> 1 地球内部の層構造 2 地球内部を構成する物質 3 地殻を構成する岩石 中間考査行わず	<ul style="list-style-type: none"> 地球内部の層構造、地殻やマントル、核を構成する物質について学習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ノート提出 	
	6	<u>3 節 プレートの運動</u> 1 プレートテクトニクス 2 大地形の形成 <u>4 節 火山と地震</u> 1 火山活動 2 地震活動	<ul style="list-style-type: none"> 火山と地震といった地殻変動を統一的に説明するプレートテクトニクス、さらに深めたプレートテクトニクスについて理解する。 マグマの性質により、火山噴火の様式や噴出物、火山の形などが異なることを理解する。 地震波の伝わり方や地震の大きさ、地震と断層運動について理解する。また、地震による被害の種類についても学ぶ。 		
	7	2 章 地球の変遷 <u>1 節 地層と化石</u> 1 地層のつき方 2 地質構造の形成 3 化石と地質時代の区分 期末考査を実施	<ul style="list-style-type: none"> 地層がどのようにしてできるのか、重なりが時間的経過を示していることを理解する。 地質構造の変形から、古い時代に起こった地殻変動がわかることを理解する。 化石の記録から分かる生物界の変遷に基づいて地質時代が区分されること、年代区分には相対年代と数値年代があることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ノート提出 期末考査 	

	月	学習単元・項目	学習のねらい	評価のポイント
一 学 期	9	3 化石と地質時代の区分 <u>2節 古生物の変遷と地球環境</u> 1 初期生命と大気の変化 2 多様な生物の出現と脊椎動物の発展 3 哺乳類の繁栄と人類の発展 3章 大気と海洋 <u>1節 大気と運動</u> 1 大気 2 大気の状態 3 大気中の水とその状態 4 大気の状態 5 雲 <u>中間考査行わず</u>	<ul style="list-style-type: none"> 地球の誕生から生物の出現にいたる地球の歴史について理解する。 古生物の変遷に基づいて地質時代が区分されること及び地球環境がどのように移り変わってきたのかについて理解する。 大気には層構造があること、大気圧や大気組成について学ぶ。また、各層の特徴を理解する。天気が関係する大気現象が対流圏で起こっていることを理解する。 大気の状態が変化すること、雲のでき方を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業中の興味、関心、態度 単元ごとにワーク提出
	10	<u>2節 大気の大循環</u> 1 地球のエネルギー収支 2 大気の大気エネルギー収支 3 大気大循環 4 温帯低気圧と熱帯低気圧	<ul style="list-style-type: none"> 地球全体の熱収支について理解する。 大気の大循環とそれによる地球規模の熱の輸送について学習し、その際に起こる風によって、天気が変化することを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ノート提出
	11	<u>3節 海洋の構造と海水の運動</u> 1 海洋の層構造 2 海水の運動と循環 <u>4節 日本の四季の気象と気候</u> 1 気象と気候 2 日本の四季	<ul style="list-style-type: none"> 海洋にも層構造があることを学び、海水の運動とそれによる地球規模の熱の輸送について学習する。 気象と気候の違いを理解する。日本周辺にある気団と季節変化との関係を知り、日本の四季の特徴について学ぶ。 	
	12	4章 太陽系と宇宙 <u>1節 太陽系の中の地球</u> 1 太陽系の概観 2 太陽系の誕生と惑星の分類 3 太陽系の天体の素顔 4 惑星の構造 <u>期末考査を実施</u>	<ul style="list-style-type: none"> 太陽系の広がりや太陽系の天体の存在を学ぶ。 太陽系の惑星の形成過程と、惑星の内部構造との関係や、地球や月の誕生、海の形成、生命誕生の条件について学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ノート提出 期末考査
三 学 期	1	<u>2節 太陽とその進化</u> 1 太陽のすがた 2 太陽をつくる物質とエネルギー 3 太陽の明るさと活動 4 太陽の誕生 5 これからの太陽	<ul style="list-style-type: none"> 太陽の明るさや質量、大きさ、現象などの特徴を学ぶ。 太陽がどのように誕生し、どのような道をたどるのかについて学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業中の興味、関心、態度 単元ごとにワーク提出
	2	<u>3節 宇宙のすがた</u> 1 宇宙の構造 2 宇宙の誕生	<ul style="list-style-type: none"> 太陽系、銀河系、銀河団など、宇宙には階層構造が存在することを学ぶ。 宇宙誕生後、ビッグバンにより宇宙の膨張が始まり、38万年後には宇宙の晴れ上がりが起こったことを知る。 	
	3	5章 地球の環境 <u>学年末考査を実施</u>		<ul style="list-style-type: none"> ノート提出 学年末考査